

潮流

日本に、シンクタンクという言葉が定着して久しい。最近では、企業のシンクタンク設立が相次ぎ、設

立に向けて動へ自治体も数多く見られる。各界の、質の高いシンクタンクに対する期待は増すばかりである。

鳥取ガス機代表取締役社長

児嶋 祥悟



シンクタンク(TANK) K(TANK)を辞書で引くと、▽頭脳集団▽数々の領域の専門家を集めて、情報収集、調査研究、基礎、応用研究を行い、社会開発や政策決定などの複合的な問題を研究する機関と書

人の話がある。世界中の人が日本についての知識がほとんどない時代に、パリで世界中の新聞記者を集めて会見し、「おれはこれから

馬で真冬のシベリアを横断する」と、馬に上る大冒険家であるこの「トメ」を確立させ、全く疑われない

現代は情報がはんらんして知性あるマン・プラストラクチャーが不可欠なのである。例えば、西欧やアメリカ

シンクタンクの条件として、▽未来志向▽システム志向▽視野の広さ▽学際性▽独立性▽政策志向の六

和▽高速道路・新幹線・国際空港・国際港▽大学設置▽空洞化―など数限りない。郷土の未来を担い、二十

シンクタンク設立急げ

いてある。情報収集の重要性は、有史以来、随所に見られることが出来、非分の歴史はその上に成り立って来た、と言っても過言ではない。

ひとりの例だが、日露戦争前後の福島安正という

となくロシアに入り、シベリアを単騎で横断し、その間に日露戦争の大体の輪郭を作り上げてしまったとい

いる。だが、データはみんなにあるが、インテリジェンスが皆無なのが今の日本である。ハードはあっても、重要なソフトを得るための人材やアンテナがない。国

底にはヒューマニズムが脈々と流れている歴史的背景を、正しく理解しておかな

二十一世紀を展望する。鳥取県のシンクタンクに課せられたテーマは何か。▽食糧・山林・治水▽自然・環境▽人口減少▽福祉・高齢化・健康▽国際化・環日

(鳥取市)